

平成 19年 12月 13日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|-----------|
| 事業所番号 | 2073400679 | | |
| 法人名 | 株式会社 ライフ・パートナー | | |
| 事業所名 | グループホーム・ケアプラザみつえ | | |
| 所在地 | 上水内郡飯綱町牟礼2519番地1 (電話) 026-253-8617 | | |
| 評価機関名 | 株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室 | | |
| 所在地 | 長野県松本市深志3丁目7番17号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年12月13日 | 評価確定日 | 平成20年1月9日 |

【情報提供票より】(19年 10月 31日 事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|--------|------------------|
| 開設年月日 | 平成 17年 12月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 23 人 | 常勤6人 | 非常勤17人 常勤換算13.4人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|----------|-----|-----|
| 建物構造 | 木造準耐火 造り | | |
| | 2 階建ての | 1・2 | 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 32,000~42,000 円 | その他の経費(月額) | 11,000 円 |
| 敷 金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (100000円) | 有りの場合 償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 |

(4) 利用者の概要 (10月 31日 現在)

| | | | | | | |
|-------|------|--------|-----|------|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 | |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 3名 | | | |
| 要介護3 | 4名 | 要介護4 | 5名 | | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | | | | |
| 年齢 | 平均 | 86.1 歳 | 最低 | 75 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------|
| 協力医療機関名 | 公立飯綱病院・ながさき医院・丸山医院・田村歯科医院 |
|---------|---------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯綱・戸隠・黒姫が眺望できる豊かな自然環境の中に立地している。リビングから見える飯綱山は、利用者には見慣れた風景の一つである。見慣れた風景と、昔からの地域で生活できる喜びを、利用者の会話から感じ取られた。「みつえ」というホーム名は、運営者の親族の名前ということを知り、ホームに寄せる思いを強く感じられた。飯綱町が県の「認知症推進事業モデル地区」になり「安心して暮らせる地域づくり」を目指している。設立されて3年目になったばかりであり、ホームの今後も引き続き利用者・職員により、変化する可能性を含んでいる。認知症の利用者が引き続きホームの一員として生活になじみ、進行も遅くなるような生活の場となって行くことが期待される。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 17年12月1日開設・初めての第三者評価 |
| 重点項目① | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 初めての取り組みであり、表現方法が分からないなどあったが職員参加で出来た。今まで気付かなかったこと・考えなかったことなどあらためて反省の場となった。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 県の指定地区という事もあり、運営推進委員も2つの役場より委員が選出されており幅広い意見が交換されている。区長を通じて老人会との関わり方の希望など提案している。回を重ねるごとに地域とのかかわりの方が良い方向に変わってきた。今後も推進会議を通してホームの抱える問題点など議題にあげて頂きたい。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族へのアンケートを独自に作成して、家族の要望・苦情など聞く機会を作っている姿勢を評価できる。家族からの要望等は定例会議において職員で話し合い対処している。リスクを避けるために鍵をしているということについては、目に見えるリスクには対応できるが利用者の心のリスクは分らないと思うので、運営者・職員・家族と話し合い、鍵をかけない事への対応を検討して欲しい。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域との交流は盛んに行われている。地域での催し物への参加も頻繁に行っている。ホームでのイベントにも地域の方々が大勢参加している。ボランティアも大勢参加していただいている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|--------------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 代表者はホームを作るに当り、「福祉・教育に地域格差があってはいけないという志のもとに飯綱の地区に建設に至った。同地区はデイサービスが充実しており、地域よりの希望もあり、宿泊施設を建設した。地域の中という思いも盛り込まれ理念は、作られている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 月に一回の定例会で必ず理念のことを話している。職員は、ホームの理念を理解して自分の言葉で解釈している。毎日の生活で、実施されている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 区費の支払いを行っている。行事等の情報は、役場より直接いただいている。地域の行事にも招待され、参加している。ホームでの行事にも地域の方々・ボランティアの方々が大量参加されている。近所の方々より野菜や・果物の差し入れなどが沢山ある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 開設以来初めての自己評価であり、戸惑う事も多かったが、現場職員とともに意見など聞き最終的に運営者・施設長でまとめた。自己評価により気づきの点・改善点などの発見が出来た。 | | |

ケアプラザみつえ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|------|--|---|--------------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部の委員8名ホーム職員3名の構成で行われている。2つの役場の職員・地域包括センター職員の参加している。最初の頃はホームの現状報告を重点的に行ってきたが、最近は、役場・家族に質問を投げかけ情報をもっている。推進会議が行われた事により地域との関わり方の方向付けが変化してきている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 上水内郡飯綱町は、県の「認知症地域支援体制構築等推進事業」のモデル地区に選ばれた。隣接する役場より研修の案内や勉強会の誘いがある。飯綱町がモデル地区になっていることから情報・資料なども的確に回答をいただいている。役場とは、連絡は密に行われている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 月に1回家族のもとへ「みつえだより」が送られている。行事の予定と職員の異動の紹介、行事の写真など掲載され作られている。職員の手書きによるお便りのコーナーも設けられており、担当職員が利用者の日常の状態を家族のもとへ報告している。スナップ写真も同封している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホーム独自のアンケートを作り、イベントなど家族が集まる機会にアンケートをお願いしている。大勢の家族が参加しているので、話しやすい雰囲気、要望・感謝の言葉が聞かれる。家族よりの意見は、定例会で全員に連絡・反省対処法など話し合っている。退室された家族の方の訪問もよく見られる。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ユニットの異動は、考えていない。利用者との関係作りを強めていきたい。又個人の事情で退職など職員の交代の場合は、「みつえだより」で写真を入れ、家族に連絡している。 | | |

ケアプラザみつえ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 開設時に研修参加を多くした。開設以後は、新人優先で、研修に参加している。モデル地区ということから役場よりの研修の情報も沢山あり参加している。研修参加者は、定例会で全体発表し全職員が共有できるように心がけている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ネットワークに参加している。グループホームの訪問なども行っている。よそのホームを訪問することで、自分のホームの長所や直して行きたいこと等が見つけられる。近隣の温泉施設より訪問を受けている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 施設長が希望者宅を訪問して、家族を交えながら相談に応じている。ホームへの訪問もしていただいている。共同で生活が出来ることが前提で家庭の事情などを考え利用していただいている。役場・社協よりの依頼もある。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者の笑顔が見られることで毎日が楽しく仕事が出来ることに感謝している。料理の作り方や食材の切り方食べ方などを教えてもらっている。又手先の仕事を教えてもらう。 | | |

ケアプラザみつえ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居する時に生活歴の聞き取り調査をしている。家族より聞き取りをしている。毎日の生活の中から、会話などを通じて理解できるように心がけている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者の担当職員をきめて、プランを作成している。担当職員は、より家族との会話をして希望などを聞きだし、利用者の毎日の生活状態をよく見ることに注意して作成している。定例会で全体の意見を聞き最終計画作成担当者がプランを作成している。家族へは、ホームに訪問していただいた時に説明をしながら了解を得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6ヶ月の見直しを原則としている。心身の状況の変化がある時は随時対応している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | かかりつけ医の受診は、原則は家族が付き添いだが都合がつかない場合は、職員が付き添いもする。近所には、美容院が無いのでホームに美容師に来てもらい整髪している。 | | |

ケアプラザみつえ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 近隣の入居者が多いので、かかりつけ医の継続が多い。かかりつけ医への受診は、家族とのつながりを保つために家族に依頼している。個人情報の関係からも出来る限り家族に依頼している。インフルエンザの予防接種は、ホームに協力医に来ていただき職員・利用者が受けた。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りは、避けて通れない問題と認識しているがそのときの状態で考えたい。看護が必要か・介護が必要かで専門の場で見てもらうのが利用者にとって一番と思う。家族との関係も考えて行きたい。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 契約書にも書かれており利用者・家族に説明している。ホーム職員は、利用者の介護度にはらつきが出てくることで対応をどのようにするのが良いか、日々勉強している。職員の優しい対応が目立った。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日のスケジュールは出来ているがすべてではない。利用者の状況により対応している。 | | |

ケアプラザみつえ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|--|--------------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員が利用者の希望など聞き、メニューを作成している。利用者の状況に応じた食事作りがされている。メニューは同じでとろみをつけたり、刻みを多くしたり工夫されている。会話を楽しみながら職員と共に食べている。盛り付けが得意な方・後片付けが得意な方・テーブルを拭く方など一人ひとり出来ることで参加している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 月・水・金と週3回の利用を原則としている。お風呂は、1ヶ所で2ユニットで使用している。職員が2人付き添い入浴している。車椅子の方も2人で抱えながら入浴してもらっている。浴槽内にイスを入れるなどして工夫されている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 昔は藁で作ったそうだが、手作りのわらじを利用者が作っている。今は布地を細かく裂く人とぞうりを作る人に分担して作っている。利用者で歌を歌ったり楽しんでいる。職員は、利用者の活躍できる場を探しながら援助し寄り添い生活している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気の良い日は、近所のお宮まで散歩コースがあり職員と数人で出かけている。地区で行われている、お茶会「さろん えんがわ」へ定期的に参加している。昔からの友人が参加しておりそこで地域の方々と交流も図っている。 | ○ | 天気の良い日の散歩は、今後も続けていただきたい。ホームでの快適な生活が送られているが、そこに留まらずに地域の中で買い物をしたり、外食をしたりする機会を作っていただきたい。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 運営者の利用者の安全のためということから鍵はかけている。地域柄ホームの周辺は広く、冬にもなると周辺は、雪で覆われる。雪が無い場合でも昼と夜の温度差があり非常に危険であるということから施錠している。南側の庭へは、自由に出入りできる。 | ○ | 運営者の「利用者の安全のため」という信念のもとに施錠をしているが、明るい時間帯に限って鍵を開けるなど工夫が出来ないか考えていただきたい。利用者自身が言葉として表現が出来ない場合などストレスとなる事も考えられる。職員の観察力を向上させることにおいても、何らかの工夫をお願いしたい。 |

ケアプラザみつえ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の消防訓練を行っている。地元消防団との地域防災協定を結んである。ホーム独自にマニュアルも作成されている。訓練には、近所の方も参加されている。今後は、近所の方々への要望をどのようにして行くかも考えたい。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立表によるバランスのチェックをしている。食事は、職員と一緒に食べているので残量など職員がチェックしている。水分は、食事時・おやつの時などたっぷりと取っている。排便などのチェック表がありそこからも支援している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間には炬燵があり、昔ながらの生活を楽しめる空間がある。利用者には好評を得ている。優しい音楽が流れ、清潔感にあふれる明るい雰囲気、心穏やかに過ごせる環境になっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室からは、山や畑が見え落ち着けるようになっている。自分の好きな物や写真などを壁に貼ったりして住み心地良い工夫がされている。 | | |

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。